

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 9 月 1 日現在

機関番号：34451

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19K10524

研究課題名(和文) グローバルな医学者・医師育成のための医学英語教材・教育プログラム開発

研究課題名(英文) English Education Curriculum for Global Medical Researchers and Doctors

研究代表者

川越 栄子 (Kawagoe, Eiko)

滋慶医療科学大学・医療科学部・教授

研究者番号：80285361

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：1) You Tubeの医学系英語講演 2) 国際学会発表 3) USMLE受験 4) オンライン英会話等の教材・教授法を開発し医学生(阪大・神大)・医師(神戸市立医療センター中央市民病院)等に試用させた。1)-3)の受講者は「有意義であった」との感想をもつ一方で「発信力の足りなさに気づいた」と感じていた。そこで4)を実施した結果、毎日25分英語を話す約2ヶ月で効果が出始め、4ヶ月で確実に効果が出る事が証明された。

国際学会発表表現、医療英語表現を学習させるとともに毎日25分英語を話させる事を全国の医学科で実現すると、グローバルに活躍できる医学者・医師の数を増やす事ができる事は確実であると考えます。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新型コロナウイルス感染収束後には訪日外国人客の激増が予測され、また在留外国人は2,928,940人(2020年12月)存在する。しかし外国人患者対応の医学英語教育は不十分である。さらに医学研究において日本は臨床研究では後進国であるといわれており医学生に国際学会発表・英語論文執筆などの指導は充分行われていない。このような状況のなか、英語で診療できる医師・英語を使って研究発表ができる医学者を育てることは喫緊の課題である。本研究で様々な教材・教育法を開発し、医学生・医師にとって大変有意義である事が証明でき大きな成果を得た。グローバルに活躍できる医師・医学者育成に貢献できることは間違いない。

研究成果の概要(英文)：We developed four groups of teaching materials and methods. They were: 1) Medical lectures in English on You Tube; 2) International conference presentations; 3) USMLE examinations; and 4) Online English conversation. Furthermore, we let medical students (Osaka University and Kobe University) and doctors (Kobe City Medical Center Central Municipal Hospital) use them. Those using groups 1 to 3 said these were "meaningful" but also felt that they lacked the ability to communicate. So we let them use an on-line conversation platform. Those using Study group 4 showed that speaking English for 25 minutes every day started to be effective in about 2 months. It was proven to be fully effective in 4 months.

We believe that if many medical departments in Japan implement this program, it is certain to increase the number of medical doctors and scientists who can be active on the global stage.

研究分野：英語教育 (医療系ESP)

キーワード：ESP 医学英語 医学生 医師 国際学会発表 医療英会話 オンライン英会話

1. 研究当初の背景

(1) 日本は基礎研究のレベルは高いが臨床研究では後進国である。(「世界からみた日本の臨床研究」高橋希人 *medicina* 48-5, 2011) 一部のノーベル賞学者のようなトップレベルの研究者を除くと一流医学誌への掲載・国際学会での発表件数が世界と比べて少ない。

(2) 訪日外国人は、世界的パンデミック収束後には激増が予測されている。在留外国人は293万人(2020年12月)存在する。

(1)(2)に対応するため、世界に通用する医学者・医師の育成は日本にとって重要な課題である。日本医学会総会は今まで国際的なテーマをあまり大きく取り上げていなかったが2019年度より「グローバル化する日本の医療」を基本的な柱の一つとしている。

しかし、将来グローバルに活躍できる医学者・外国人患者を診療する医師のための教育は不十分であった。

(3) 過去4回代表者として川越は科研費を得て医学英語教育を研究してきた。まず全国の医学科対象の調査をし、十分な英語教育が行われていないことが判明した。そこで、「医学英語語彙」「速読」「基本診療」「学会基本表現」等の自主学習ができるイーラーニング教材を開発した。コンピュータ・スマートフォンを使ってのこれらの教材により大きな成果は得た。

これらは基本の医学英語を習得するものであったが、さらに専門的で高度な内容を取り入れ、世界を相手に活躍できる医学者・医師を育てることができる教材・教授法を開発する必要性があった。そこで、今回は国際学会の模擬練習・外国語患者模擬診療練習を英語母語話者相手に練習するプログラムを開発し、世界を相手に活躍できる医学者・医師を育てることができる教材・教授法の開発をめざした。

2. 研究の目的

I. 国際学会発表能力教授法開発

国際学会において英語で研究発表を行い、質問にも適切に答えられる能力を養うための教材・教授法を開発する。

II. 英語診療能力教授法開発

外国人患者を英語で診療できる能力を養うための教材・教授法を開発する。

III. 英語スピーキング能力教授法開発

上記 I.II.の能力をサポートするための英語発話能力を高めるための教材・教授法を開発する。

3. 研究の方法

以下の教材、教授法を開発し、大阪大学医学部医学科学生・神戸大学医学部医学科学生、神戸市立医療センター中央市民病院研修医・専攻医に試用させその成果を検証した。

I. 国際学会発表能力教授法開発

- 1) YouTube の医学系英語講演
- 2) 国際学会模擬練習プログラム

II. 英語診療能力教授法開発

1) USMLE(United States Medical Licensing Examination) 受験講座

III. 英語スピーキング能力教授法開発

1) オンライン英会話練習

4. 研究成果

I. 国際学会発表能力教授法開発

1) You Tube の医学系英語講演

前回、前々回の科研費で入手した国際学会 ‘ **American Heart Association 2012** ’ ‘ **The 44th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery** ’ の映像教材をさらに発展させる計画であったが、低学年の学生には内容が難しすぎるため、**You Tube** のテキサス大と京大の医学者による講演を阪大の学生に視聴させたところ理解しやすく、特に京大の山中伸弥教授のユーモアを交えた講演は、楽しみながら医学を学べるもので、超一流の医学者には、ユーモアで聴衆を笑わせる事も必要な事まで学ばせることができた。**You Tube** が良質の教材になりうる事が判明した。

2) 国際学会模擬練習プログラム

学生対象

国際学会発表を希望する阪大医学科学生対象に「ベルリッツ医学英語講座」を実施した。医師の国際学会発表の指導経験豊富な外国人講師と相談のうえ国際学会発表のためのトレーニングプログラムを開発した。効果的な学会発表をするために発表の構成（**Opening, Body, Closing**）・それぞれのセクションでよく使う表現を提示し、発表の全体像をつかませたうえで、実際に日常の話題・専門科目で学んだ内容を英語で発表する事に挑戦させた。

医師対象

神戸市立医療センター中央市民病院（厚生労働省臨床研修指定病院）の研修医・専攻医で国際学会で発表する機会が学生よりも可能性が高いグループを対象とした。研究分担者古川は、同病院の部長であり専攻医指導責任者として国際学会発表の指導にあたっており、古川の指導する医師を対象者の中心とした。受講後のアンケートでは全員が「大変ためになった」「ためになった」と答えたが、国際学会発表へのモチベーションの高まりについては、自分の英語のできなさに落胆したためモチベーションがあまり高まらなかったとの医師の意見が目立った。

II. 英語診療能力教授法開発

1) USMLE(United States Medical Licensing Examination) 受験講座

医学生から要望のあった **USMLE(United States Medical Licensing Examination)** 受験のための講座を阪大医学生対象に実施した。これはアメリカで医師資格を取得するために合格する必要がある試験だが、その他の国の医学部在学学生・卒業生にも開かれている。アメリカへの臨床留学の必要要件にもなっている。**STEP1**、**STEP2 (CK・CS)**、**STEP3** の

3段階の形式で構成されているが、今回の講座は **STEP2CS (Clinical Skills)** : 模擬患者役から、問診、診察、診断等を英語で行う)を受験するための基礎講座として実施した。講座内容は次のとおりであった。

1日目 Understanding, clarifying and explaining patient concerns/Roleplays

Softening the tone for challenging questions and answers / Roleplays

2日目 Handling special patients / Feelings Self-and peer-assessments for USMLE preparation / Mini-cases

3日目～5日目 Practice cases

受講後のアンケートでは全員が「大変ためになった」「英語で診療するモチベーションが高まった」「**USMLE**を受験するモチベーションが高まった」と答えた。「受講してから意識が変わったことについて」は大半が「自分の英語力の足りなさに気づいた」「自分で英語をもっと勉強しようと思った」「海外旅行がしなくなった」と答えた。

III.英語スピーキング能力教授法開発

1)オンライン英会話練習

「国際学会発表」「**USMLE**」のための講座を開き、一定の成果はでた。しかしこれらの講座の受講者からは「自分の英語力の足りなさに気づいた」という意見が非常に多かった。短期の専門的な講習会だけでなく、英語を流暢に話せるように「時間をかけて」英語を話す機会提供が必要である。前回までに獲得した科研費・今回の上記の取り組みによる研究で開発蓄積した教材・プログラムを有効に使用するためにも、そのような機会がなくてはならないものである。

そこで、既存のオンライン英会話教材を使って毎日英語を話させる事で、英会話力の向上を検証した。今回使用したのはオンライン英会話教材 **EnglishCentral** (世界中に **10,012,400** のユーザー・**1,050** の教育機関&パートナーがある。日本の多くの大学も契約)である。大阪大学医学部医学科学生 **11** 名・神戸大学医学部医学科学生 **48** 名・神戸大学医学部保健学科学学生 **4** 名・神戸市立医療センター中央市民病院医師 **11** 名、計 **74** 名に対して外国人と英語で話すレッスンを **1日 25分**、**1ヶ月間**受講させた。さらに続けて希望する者には継続して受講させた。なお、受講初回にレベルチェックテスト、受講最終回に上達度テストを受けさせた。**EnglishCentral** の英語スピーキングレベル基準と **TOEIC, IELTS, TOEFL, TOEFL IBT** のスコアおよび **CEFR** との換算表を下記に示す。

EnglishCentral	1	2	3	4	5	6	7
TOEIC	10- 180	185- 220	225- 545	550-780	785- 900	905- 945	950- 990
IELTS	<2	<3	<4	4 - 4.5	5 - 6.5	7 - 8	8.5 - 9
TOEFL	0 - 7	8 - 31	32 - 59	60 - 78	79 - 93	94 - 114	115- 120
TOEFL IBT	<37	37 - 44	45 - 55	56 - 66	67 - 88	89- 104	105- 120
CEFR	A0	A1	A2	B1	B2	C1	C2

表1 **EnglishCentral** と **TOEIC, IELTS, TOEFL, TOEFL IBT** 換算表

受講期間・人数・成果を表 2、上昇者の初回・最終回レベルを表 3 に示す。

受講月数	阪大医学科	神大医学科	神大保健学科	中央市民病院	計	上昇レベル 1 以上者
1	5	27	4	11	47	0
2	1	16			17	2
3		4			4	2
4	2	1			3	2
5	2				2	2
6	1				1	1
計	11	48	4	11	74	9

表 2 EnglishCentral オンライン会話レッスン受講期間・人数・成果

EnglishCentral のレベルが 1 以上上がった学生は 9 名であった。毎日 25 分英語を話すと 2 ヶ月から効果が出始め、4 ヶ月以上継続すると確実に効果が出る事が証明された。(4 ヶ月継続で効果の出していない学生は、受講頻度が 1/4 であった。)

受講月数	初回レベル	最終回レベル	上昇レベル	所属医学科	フィリピン人講師:F 英語母語話者:N
2	3	4	1	神大	F
2	3	4	1	神大	F
3	3	4	1	神大	F
3	4	5	1	神大	F
4	2	5	3	阪大	N & F
4	3	5	2	神大	F
5	2	4	2	阪大	F
5	4	5	1	阪大	N & F
6	4	5	1	阪大	N & F

表 3 EnglishCentral レベル 1 以上上昇学生

留学には IELTS のスコア 6-6.5 に相当する EnglishCentral のレベル 5 が必要である。5 を達成した 5 名のうち 3 名は阪大の 4 年生以上で、留学を強く希望しており、モチベーションの高さが成果に直結していた。残りの 2 名は神大の 2 年生でありまだ将来の希望は明確ではないが留学を検討していた。モチベーションがあれば達成できる事が証明された。

また、EnglishCentral は「フィリピン人講師のコース」または「英語母語話者の講師またはフィリピン人講師のコース」を選べるが、講師の違いによる成果の違いはなかった。

今回は、学生だけではなく、病院の研修医・専攻医にも参加してもらったが、医師対象の英語教育研究はほとんど行われておらず、その意味でも当取組は有意義であった。

結論として、大学在学中に国際学会・医療英会話の教材・教授法で学習させるとともに毎日 25 分英語を話すことを全国の医学科で実現すると、グローバルに活躍できる医学者・医師の数を増やす事ができる事は確実にあると考える。当取組を今後も精度を上げて続けていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 20件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 20件）

1. 著者名 Sano Madoka, Murai Ryosuke, Kim Kitae, Furukawa Yutaka	4. 巻 2022 Feb 11
2. 論文標題 Cardiac magnetic resonance findings in acute myocarditis after mRNA COVID-19 vaccination	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Cardiology Cases	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jccase.2022.01.015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masumoto Akiko, Kitai Takeshi, Matsumoto Shingo, Kuroda Shunsuke, Kohsaka Shun, Tachikawa Ryo, Seo Ryutarou, Doi Asako, Tomii Keisuke, Yonetsu Taishi, Torii Sho, Komuro Issei, Hirata Ken-ichi, Node Koichi, Matsue Yuya, Furukawa Yutaka	4. 巻 79
2. 論文標題 Impact of serum lactate dehydrogenase on the short-term prognosis of COVID-19 with pre-existing cardiovascular diseases	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Cardiology	6. 最初と最後の頁 501 ~ 508
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jjcc.2021.12.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sano Madoka, Kim Kitae, Furukawa Yutaka	4. 巻 61
2. 論文標題 Extensive Coronary Thrombosis in a COVID-19 Patient	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Internal Medicine	6. 最初と最後の頁 929 ~ 930
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/internalmedicine.8826-21	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyoshi Yutaro, Kaji Shuichiro, Masumoto Akiko, Kim Kitae, Kitai Takeshi, Kinoshita Makoto, Furukawa Yutaka	4. 巻 S0022-5223(21)
2. 論文標題 Aortic enlargement in two weeks is associated with subsequent aortic events in patients with type B acute aortic syndrome	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery	6. 最初と最後の頁 01363-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jtcvs.2021.09.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Torii Yuta, Okada Taiji, Tokiwa Mariko, Furukawa Yutaka	4. 巻 5
2. 論文標題 Multimodal imaging of right ventricular obstruction due to metastatic cardiac tumour	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 European Heart Journal - Case Reports	6. 最初と最後の頁 ytab290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ehjcr/ytab290	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masumoto Akiko, Kobori Atsushi, Sasaki Yasuhiro, Pak Mison, Furukawa Yutaka	4. 巻 7
2. 論文標題 Successful catheter ablation of persistent atrial fibrillation and common atrial flutter in a patient with dextrocardia, situs inversus, and interrupted inferior vena cava with azygos continuation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 HeartRhythm Case Reports	6. 最初と最後の頁 403 ~ 407
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.hrct.2021.03.015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ishizu Kenichi, Kaji Shuichiro, Nakashima Masaki, Kitai Takeshi, Kim Kitae, Ehara Natsuhiko, Kinoshita Makoto, Furukawa Yutaka	4. 巻 301
2. 論文標題 Focal Intimal Disruption Size at Multidetector CT and Disease Progression in Type B Aortic Intramural Hematoma	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Radiology	6. 最初と最後の頁 311 ~ 319
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1148/radiol.2021204385	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川越栄子	4. 巻 -
2. 論文標題 グローバルな医学者・医師育成のための英語プレゼンテーション講座	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The JACET International Convention Proceedings: The JACET 60th Commemorative International Convention 2021	6. 最初と最後の頁 177,178
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kim Kitae, Kitai Takeshi, Kaji Shuichiro, Pak Misun, Toyota Toshiaki, Sasaki Yasuhiro, Ehara Natsuhiko, Kobori Atsushi, Kinoshita Makoto, Furukawa Yutaka	4. 巻 316
2. 論文標題 Outcomes and predictors of cardiac events in medically treated patients with atrial functional mitral regurgitation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Cardiology	6. 最初と最後の頁 195 ~ 202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijcard.2020.06.042	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Furukawa Yutaka, for the BPV-AF Registry group, Miyake Makoto, Fujita Tomoyuki, Koyama Tadaaki, Takegami Misa, Kimura Tetsuya, Sugio Kumiko, Takita Atsushi, Nishimura Kunihiro, Izumi Chisato	4. 巻 34
2. 論文標題 Rationale, Design, and Baseline Characteristics of the BioProsthetic Valves with Atrial Fibrillation (BPV-AF) Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cardiovascular Drugs and Therapy	6. 最初と最後の頁 689 ~ 696
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10557-020-07038-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tsujiisaka Y, Kitai T, Kaji S, Kinoshita M, Nakamura K, Koyama T, Furukawa Y.	4. 巻 Volume 2, Issue 15,
2. 論文標題 Sole Obstruction of the Inferior Mesenteric Artery With Acute Aortic Dissection Causing Critical Mesenteric Ischemia.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J Am Coll Cardiol Case Rep.	6. 最初と最後の頁 2465-2469
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masumoto Akiko, Kitai Takeshi, Ota Mitsuhiko, Kim Kitae, Ehara Natsuhiko, Furukawa Yutaka	4. 巻 4
2. 論文標題 Real-time observation of a high-echoic mass in the left ventricle during transcatheter aortic valve implantation: a case report	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 European Heart Journal - Case Reports	6. 最初と最後の頁 1 ~ 4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ehjcr/ytaa392	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Miyoshi Yutaro, Kitai Takeshi, Yamane Takafumi, Sano Madoka, Koyama Tadaaki, Furukawa Yutaka	4. 巻 4
2. 論文標題 A huge cardiac haemangioma in the left ventricular wall	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 European Heart Journal - Case Reports	6. 最初と最後の頁 1~2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ehjcr/ytaa374	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Amano M, Izumi C, Taniguchi T, Morimoto T, Miyake M, Nishimura S, Kitai T, Kato T, Kadota K, Ando K, Furukawa Y, et al.	4. 巻 Mar 1;20(3)
2. 論文標題 Impact of Concomitant Tricuspid Regurgitation on Long-Term Outcomes in Severe Aortic Stenosis	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Eur Heart J Cardiovasc Imaging	6. 最初と最後の頁 353-360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/ehjci/je105.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murai R, Kaji S, Kitai T, Kim K, Ota M, Koyama T, Furukawa Y.	4. 巻 Spring;31(1)
2. 論文標題 The Clinical Significance of Cerebral Microbleeds in Infective Endocarditis Patients	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Semin Thorac Cardiovasc Surg.	6. 最初と最後の頁 51-58.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1053/j.semctvs.2018.09.020.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Matsumura-Nakano Y, Shizuta S, Komasa A, Morimoto T, Masuda H, Shiomi H, Goto K, Nakai K, Ogawa H, Kobori A, Kono Y, Kaitani K, Suwa S, Aoyama T, Takahashi M, Sasaki Y, Onishi Y, Mano T, Matsuda M, Motooka M, Tomita H, Inoko M, Wakeyama T, Hagiwara N, Tanabe K, Akao M, Furukawa Y, et al.	4. 巻 Jan 29;139(5)
2. 論文標題 Open-Label Randomized Trial Comparing Oral Anticoagulation With and Without Single Antiplatelet Therapy in Patients With Atrial Fibrillation and Stable Coronary Artery Disease Beyond 1 Year After Coronary Stent Implantation.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Circulation	6. 最初と最後の頁 604-616
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1161/CIRCULATIONAHA.118.036768.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kim K, Yamashita Y, Morimoto T, Kitai T, Yamane T, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Amano H, Takase T, Hiramori S, Oi M, Akao M, Kobayashi Y, Toyofuku M, Izumi T, Tada T, Chen PM, Murata K, Tsuyuki Y, Saga S, Sasa T, Sakamoto J, Kinoshita M, Togi K, Mabuchi H, Takabayashi K, Shiomi H, Furukawa Y, et al.	4. 巻 Sep;119(9)
2. 論文標題 Risk Factors for Major Bleeding during Prolonged Anticoagulation Therapy in Patients with Venous Thromboembolism: From the COMMAND VTE Registry.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Thromb Haemost.	6. 最初と最後の頁 1498-1507.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1055/s-0039-1692425.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yaku H, Kato T, Morimoto T, Inuzuka Y, Tamaki Y, Ozasa N, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Kitai T, Taniguchi R, Iguchi M, Kato M, Takahashi M, Jinnai T, Ikeda T, Nagao K, Kawai T, Komasa A, Nishikawa R, Kawase Y, Morinaga T, Toyofuku M, Seko Y, Furukawa Y, et al.	4. 巻 Jun 5;2(6)
2. 論文標題 Association of Mineralocorticoid Receptor Antagonist Use With All-Cause Mortality and Hospital Readmission in Acute Decompensated Heart Failure.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JAMA Netw Open.	6. 最初と最後の頁 e195892.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1001/jamanetworkopen.2019.5892.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe H, Domei T, Morimoto T, Natsuaki M, Shiomi H, Toyota T, Ohya M, Suwa S, Takagi K, Nanasato M, Hata Y, Yagi M, Suematsu N, Yokomatsu T, Takamisawa I, Doi M, Noda T, Okayama H, Seino Y, Tada T, Sakamoto H, Hibi K, Abe M, Kawai K, Nakao K, Ando K, Tanabe K, Ikari Y, Hanaoka KI, Furukawa Y, et al.	4. 巻 Jun 25;321(24):
2. 論文標題 Effect of 1-Month Dual Antiplatelet Therapy Followed by Clopidogrel vs 12-Month Dual Antiplatelet Therapy on Cardiovascular and Bleeding Events in Patients Receiving PCI: The STOPDAPT-2 Randomized Clinical Trial.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 JAMA.	6. 最初と最後の頁 2414-2427.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1001/jama.2019.8145.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Natsuaki M, Morimoto T, Shiomi H, Yamaji K, Watanabe H, Shizuta S, Kato T, Ando K, Nakagawa Y, Furukawa Y, Tada T, Nagao K, Kadota K, Toyofuku M, Kimura T.	4. 巻 Nov;12(11)
2. 論文標題 Application of the Academic Research Consortium High Bleeding Risk Criteria in an All-Comers Registry of Percutaneous Coronary Intervention.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Circ Cardiovasc Interv.	6. 最初と最後の頁 e008307
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1161/CIRCINTERVENTIONS.119.008307.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kitai T, Xanthopoulos A, Tang WHW, Kaji S, Furukawa Y, Oishi S, Akiyama E, Suzuki S, Yamamoto M, Kida K, Okumura T, Skoularigis J, Triposkiadis F, Matsue Y.	4. 巻 Dec 28.S0167-5273(19)
2. 論文標題 Validation of the Larissa Heart Failure Risk Score for risk stratification in acute heart failure.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int J Cardiol.	6. 最初と最後の頁 35400-2
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijcard.2019.12.051.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計17件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 川越栄子
2. 発表標題 (ミニレクチャー) 国際学会への「最初の一步」を踏み出してもらうためのミニレクチャー
3. 学会等名 滋慶医療科学大学大学院English Meeting 2021
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Eiko Kawagoe
2. 発表標題 English Presentation Courses for Medical Students and Residents in Japan
3. 学会等名 The 13th Asian Conference on Education (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Eiko Kawagoe
2. 発表標題 English Presentation Course for Developing Global Medical Scientists and Doctors
3. 学会等名 the JACET 60th Commemorative International Convention (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川越栄子
2. 発表標題 ヴォーリス建築について
3. 学会等名 神戸研究学園都市 公開講座 「神戸の魅力再発見(9)」(神戸市主催)(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川越栄子
2. 発表標題 女子教育の幕開け ~アメリカ宣教師による新たな女性像~
3. 学会等名 神戸研究学園都市 公開講座 「神戸の魅力再発見(9)」(神戸市主催)(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Eiko Kawagoe
2. 発表標題 English Education Curriculum for Global Researchers in Medical Field
3. 学会等名 The Asian Conference on Education (ACE2020)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 川越栄子
2. 発表標題 グローバルな医学者・医師育成のための英語教材
3. 学会等名 第3回JAAL in JACET学術交流集会
4. 発表年 2020年

1 . 発表者名 Eiko Kawagoe
2 . 発表標題 Development of Medical English Teaching Materials to Train global Medical Researchers and Doctors
3 . 学会等名 The Osaka Conference on Education (OCE2020) (国際学会)
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Kim K, Pak M, Toyota T, Sasaki Y, Kitai T, Ehara N, Kobori A, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y
2 . 発表標題 Clinical Outcomes and Predictors of Adverse Cardiac Events in Medically Treated Patients with Atrial Functional Mitral Regurgitation.
3 . 学会等名 第84回日本循環器学会学術集会
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Tsujisaka Y, Kim K, Kaji S, Pak M, Sasaki Y, Kitai T, Kobori A, Furukawa Y
2 . 発表標題 Determinants of the Improvement of Atrial Functional Mitral Regurgitation after Catheter Ablation: Analysis of Multislice Computed Tomography and Transthoracic Echocardiography.
3 . 学会等名 第84回日本循環器学会学術集会
4 . 発表年 2020年

1 . 発表者名 Kitai T, Iwata K, Noto S, Shimogai T Otsuka S, Takimoto T, Yamada K, Kizawa K, Tomotsugu T, Hanada H, Morita B, Kohara N, Kita T, Furukawa Y
2 . 発表標題 Remote Monitoring and Comprehensive Post-discharge Cardiac Rehabilitation Intervention to Reduce Mortality and Readmission in Elderly Patients Hospitalized with Heart Failure.
3 . 学会等名 第85回日本循環器学会学術集会
4 . 発表年 2021年

1. 発表者名 Masumoto A, Kaji S, Miyawaki N, Nishiura N, Miyoshi Y, Pak M, Toyota T, Okada T, Kim K, Kitai T, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Furukawa Y
2. 発表標題 Impact of Antithrombotic Therapy on Clinical Outcomes in Patients with Type B Acute Aortic Syndrome.
3. 学会等名 第85回日本循環器学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川越栄子
2. 発表標題 グローバルな医学者・医師育成のための医学英語教材開発
3. 学会等名 第51回日本医学教育学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川越栄子
2. 発表標題 神戸の珈琲
3. 学会等名 令和元年度 学園都市公開講座 神戸の魅力再発見(8)～音で学ぶ神戸～(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川越栄子
2. 発表標題 国際ニュースからの神戸
3. 学会等名 令和元年度 学園都市公開講座 神戸の魅力再発見(8)～音で学ぶ神戸～(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川越栄子
2. 発表標題 リベラルアーツカレッジにおける共通英語教育改革
3. 学会等名 2019年度 TOEICセミナー「学生の将来を後押しする大学の取り組み ～ 社会のニーズから考えるTOEIC Programの活用～」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川越栄子
2. 発表標題 共通英語教育研究センターからのご報告
3. 学会等名 神戸女学院大学2019年度家庭会冬季役員会(招待講演)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 岩井麻紀、梶浦真由美、川越栄子、神野雅代、高橋寿夫、松村優子、米崎啓和	4. 発行年 2019年
2. 出版社 南雲堂	5. 総ページ数 71
3. 書名 Power-Up Colleg English(Basic)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	古川 裕 (Furukawa Yutaka) (60359833)	地方独立行政法人神戸市民病院機構神戸市立医療センター中央市民病院(第1診療部、第2診療部、第3診療部・中央市民病院・部長) (84519)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------